

はじめに

ITS(高度道路交通システム)は、安全、快適で効率的な移動に必要な情報を迅速、正確かつわかりやすく利用者に提供すること等により、道路交通の安全性、輸送効率、快適性の飛躍的向上を実現するとともに、渋滞の軽減等の交通の円滑化を通し環境保全に大きく寄与する等真に豊かで活力ある国民生活の実現に資することが期待されている。

2004年8月のスマートウェイ推進会議による提言「ITS、セカンドステージへ」においては、セカンドステージを迎えるITSを展開していく上で、共通の基盤であるスマートウェイを具体的に実現していくための方策がとりまとめられている。このなかで、多様なサービスを展開する上で必要となる共通基盤のひとつとして、デジタル地図の高度化が謳われている。

提言では、「欧米では、すでに安全運転支援に資する次世代デジタル道路データを実現する国家的なプロジェクトを立ち上げ、官民連携のもと積極的にデジタル地図整備へ向けた検討を進めている。わが国においても、カーナビゲーションシステムにおいて利用可能なデジタル地図の整備・更新については、官による基盤整備に加え、民間各社の努力により精力的に行われているところであるが、今後、走行支援システムへの活用や迅速な更新を可能とする仕組みづくりに向けて、積極的に推進することが望ましい。」とされており、欧米の取組も意識しつつ、官民が連携した積極的な取り組みが求められている。

本報告書は、デジタル道路地図に関する現状、課題、ニーズについて整理するとともに、次世代デジタル道路地図の将来像と実現のために検討が必要となる事項(迅速な更新のあり方や位置参照方式、走行支援システムへの活用、さらには国際標準化に関する検討成果)をとりまとめたものである。これにより、今後の実用化に向けて官民の関係者の共通理解が一層深まることを期待している。

なお、これらの検討にあたっては、平成16年～18年度にかけて開催された「次世代デジタル道路地図研究会(委員長:柴崎亮介 東京大学教授)」および関連するWGにおいて活発な議論を行った。研究会の設立趣意に準じ、次世代デジタル道路地図研究会は平成18年度をもって一旦終了するが、位置参照や図面情報の外部提供、地理空間情報活用推進基本法案等と関連した道路基盤地図情報に関する技術的課題の検討等については、平成19年度に議論できる体制を早期に構築する予定である。貴重なご意見を頂いた、大学、国土交通省本省、民間企業各社の委員の方々に感謝するとともに、引き続き一層のご助力を賜りたくお願い申し上げます。

平成19年3月